

ぼくが漠然と考えている事は、現代は以前にもまして頻繁に価値観が移り変わり、また多様な価値観が存在する時代だと思います。ですから“puddle in the wood”は多くのすき間と言いますか、曖昧であり、不明瞭な部分を多く残してあります。それは言葉を変えれば「自由」であるという事です。一見自己主張のない表現に思われる、曖昧や不明瞭なものは、様々な価値と柔軟に接続する為に出来るだけ多くの可能性を引き出すためのものです。

ぼくは現代という時代を、以前よりも大きなスケールをもって俯瞰してみることが必要だと思うのです。個人的な価値と社会全体の価値のありよう、それはどちらが大切と行った事ではなくて、今はその両方を考えて行かなければ行けないという事です。

“puddle in the wood”とは、森もその中にある水たまりも等しく何か大切なものを示唆させるのではないか、という比喻を込めて付けたタイトルです。小さな水たまりが大きな森や空を映し込むように、ぼくらの時代は森もその中にある水たまりも、その両方を見据えながら未来へ繋げて行かなければいけないのではないか、ぼくの描いた色斑が、時に木に見えたり時に水たまりの集まりのように見えたり、相互に関係を持つ事が大切だと思っているのです。

丸山直文